

妊娠

出産

乳幼児期



仙北市版ネウボラ

な い ろ
通信

ネウボラって？

フィンランド語で「相談する場所」が日本語に近い意味。フィンランドでは、「ネウボラ」として、かかりつけの担当者や専門職が、妊娠期から就学期まで切れ目なくサポートしています。

【電話相談／仙北市保健課】《固定電話》☎ 55-1112 《携帯電話》☎ 080-2813-0835

たばこの害から子どもを守ろう！

妊娠とたばこの害

たばこの煙の有害物質は、妊娠中の母親の胎盤をとおして胎児の血液のなかに流れていきます。

特に妊娠初期は、細胞分裂を繰り返して体をつくる基礎となる重要な時期です。胎児は、約40週の間、生まれてからの環境で生活できるように胎盤から栄養や酸素を取り入れながら活発に体づくりをしています。

胎盤をとおした有害物質は、血液をとおして胎児の脳にさまざまな攻撃をしていきます。

特に健康被害が高いとされる乳児突然死症候群は、胎児脳にニコチンが影響し、胎児のホルモン分泌が低下することが原因の1つとされています。

妊娠中・授乳中に喫煙・受動喫煙をした場合の赤ちゃんへの健康被害

因果関係が確実とされる健康被害

1 低体重出生

2 乳児突然死症候群（SIDS）

3 早産

4 母乳への有害物質の移行

関連性が高いとされる健康被害

1 流産、子宮内発育不全

2 知的能力への影響（胎児脳がニコチンの影響を受けるため）

3 肺機能低下

たばこに含まれる有害物質

1 3大有害物質

▼ニコチン

依存性の高い薬物で、喫煙直後にすぐ脳を刺激します。また、血管を収縮する作用があるため、子宮や胎盤への血液量を減少させます。

▼タール

肺にくっつき、発がん性があります。

▼一酸化炭素

血液のヘモグロビンと結合し、体の酸欠状態になります。酸素の運搬能力が低下し、胎盤から胎児に送られる酸素量が

低下します。

2 その他の有害物質

たばこの煙には、3大有害物質のほかに200種類以上の有害物質も含まれています。

▼アセトン（ペンキ除去剤成分）

▼ブタン（ライター用燃料成分）

▼ヒ素（アリ殺虫剤成分）

▼カドミウム（カーバッテリー成分）

▼トルエン（工業溶剤成分）ほか

※次回は、「受動喫煙とこどもの健康」についてです。



受動喫煙防止シンボルマーク「すいたくないボウヤ」

その1